

JASRA ニュース VOL.16/2025.10.31

「土サミット 2025」開催レポート

去る10月14日、「土サミット 2025 KYOTO」の開催が無事に終わりました。京都大学・百周年記念ホールを会場に、今回は「土文化と生命」というテーマで議論されました。

齋藤博之・国交省近畿地方整備局長等から来賓挨拶をいただいた後、京都大学・勝見武教授の「土の利用における厳格さと寛容さについて」と題した基調講演が行われました。勝見教授は自然由来重金属等含有土に言及し、科学的な根拠で寛容さを示す必要があると述べました。

次に、京都府立大学・松田法子准教授による「生環境構築史と土」と題した特別講演が行われ、地質からみる都市と集落を解説しつつ、大地に住み続ける人間がもたらした生環境の変化は人間自身に責任があり、今後、新たな形を構築しなければならないと問題提起されました。

続いて、国立研究開発法人土木研究所 地質・地盤研究グループ長の宮武裕昭氏より「土との距離感 ～土とうまくやっていく方法～」の特別講演が行われました。宮武氏は、「土は敵にもなり、味方にもなる」と述べ、土工は不確実性が大きくリスクマネジメントが必要で、多くの関係者同士が共通のイメージを持つことが大切であると解説されました。

最後に、国交省総合政策局・祢津知広企画官がファシリテーターとなって、埼玉大学・川本健教授、京都大学・小杉賢一朗教授、京都大学大学院生・江城静順氏、(株)建設資源広域利用センター・大庭孝之氏の4人が「土と文化 一農学×工学の対話から」と題したパネルディスカッションを開催。

「幸せの国際比較」から話題が始まり、各先進国の農地面積比較、日本の国土の7割は森林に覆われた山地であること、街にある土も文化文明・景観を作る源であることなどを議論。加えて、インフラ整備の観点からの土を考慮すると、複雑な要素が絡み合い、「土の扱い」に一定の答えを出すのは相当難しいと締めくくられました。

第2部の食事付き交流&体験プログラム「五観の宴」では、京都を代表する食のアーティストが集い、土をテーマに五感を刺激する創造的な食事と演出が披露されました。



冒頭で来賓として挨拶された国交省近畿地方整備局・齋藤博之の局長



基調講演を行った京都大学・勝見武教授。この由緒ある「百周年記念ホール」を会場として用意してくれました



「生環境構築史と土」を講演する京都府立大学・松田法子准教授。建築の観点から土文化を語ってくれました



「農学×工学」のパネルディスカッション。人間の生活に「土」は欠かせない存在であると改めて知ることができました



第2部の「五観の宴」。舌や鼻だけでなく、目からも刺激されるアーティスティックな食事が並びました

会員紹介

株式会社ハンエイ

三重県鈴鹿市下大久保町 971
 TEL 059 - 373 - 2121

企業概要

三重県鈴鹿市下大久保町に在る株式会社ハンエイは、代表の久保田繁吉（現在 63 歳）が平成元年に創業。それから 36 年、「仲間を創り、ともに成長し、地域の未来の為に貢献する」を理念に、県内を中心とした公共工事を中心に業績を伸ばして参りました。

平成 24 年には、鈴鹿市消防団協力事業所に認定され、地域防災への取り組み、毎年の町内草刈りの調整作業、地域イベントへの参加など、常に地域とのつながりを大切に営業しております。最近では、「もっと地域の人に会社を知って欲しい。頑張ってくれている社員に誇りをもって欲しい」という願いから、SNS を活用した情報配信も始めました。

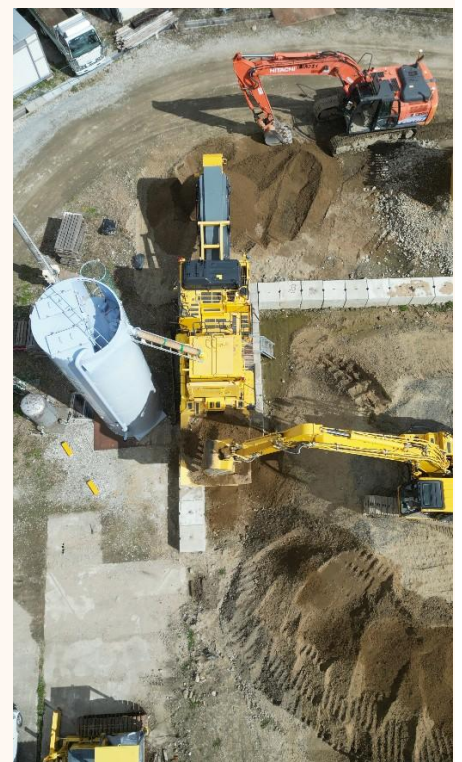
たとえば、①鈴鹿の歴史に携わってきたことを PR する「工事の before&after」、②「地域の最新情報や地域での取組」、③「防災情報」といった業界ではあまり見かけない情報発信に力を注いでおります。

改良土プラント事業

建設発生土リサイクルへの取り組みを最重要課題として取り組んでいます。

自走式土質改良機を使って、建設工事・解体工事・改修工事などで発生した建設発生土を盛土材や埋め戻し材となる「改良土」として再利用しております。

一昨年、市内 5 か所に国土交通省登録ストックヤードを設け、積極的な建設発生土の受け入れ、それを活用した改良土の製造・販売にも力を注いでいます。



三重県認定リサイクル製品

三重県では、リサイクル製品の利用を推進し、リサイクル産業の育成を図ることにより、循環型社会の構築に寄与することを目的に、「三重県リサイクル製品利用推進条例」が平成 13 年から施行されています。

そのなかで、当社の「改良土」も認定され、以下の品質基準で提供しております。

- 設計 CBR：20%以上
- 粒度：0～40mm

以下の写真は、室内締固め試験装置（左）と現場の砂置換法土密度試験の様子（右）です。



ICT を活用した土木技術

その他、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を活用し、建設現場における測量・設計・施工・監督・検査といった各工程を高度に連携・効率化。GPS 測位データや 3 次元地形モデル（3D CAD・点群データ）などを活用することで、精度の高い施工と施工管理を実現し、品質向上と生産性の飛躍的な向上を目指しております。

詳細は、右の QR コードより、ホームページでご確認ください。



<https://hanei-pp.co.jp/>



三重県リサイクル認定制度

令和06年02月02日

認定リサイクル製品データ

HANEI40



製品特徴

- ・建設発生土に生石灰を混合攪拌したのち、40mm以下に粒度調整した製品です。
- ・生石灰を配合しているので、アルカリ溶出に注意を要します。

使用する再生資源

建設発生土

含有比率：95%以上（重量比）

認定番号

建-192

認定年月日

令和6年2月1日

品目名

改良土

製品名

HANEI40

問い合わせ先

株式会社ハンエイ

鈴鹿市下大久保町北山崎971

TEL：059-373-2121

FAX：059-373-2122

WEB：<https://hanei-pp.co.jp>

E-mail：info@hanei-pp.co.jp

安全性

土壌汚染に係る環境基準（環境庁告示第46号）による土壌溶出試験結果により確認しています。

品質

粒度試験等により品質を確認しています。

会員向け WEB 講習会 報告

「土質改良プラント事業者の CCUS(建設キャリアアップシステム) 活用手順」

令和7年10月7日、JASRA 情報・広報部会主催の会員向け WEB 講習会「土質改良プラント事業者の CCUS(建設キャリアアップシステム) 活用手順」が開催された。講師は、部会長を務める(株)サンエコセンター代表取締役の小重忠司氏が行った。

CCUS カードのレベル 4(ゴールド)になるためには、保有資格として「登録土質改良基幹技能者」講習もしくは優秀施工者国土交通大臣顕彰、経験年数 10 年、職長経験 3 年が必要になる。その経験年数は、CCUS のカードタッチと経歴証明書で証明される。現段階では、令和 6 年 3 月末までの履歴は所属会社が経歴証明書を発行可能だが、令和 11 年からは CCUS のみの証明となる。

これまで、土質改良プラント運営事業者は、CCUS による証明を元請け会社に依頼しなければ就業履歴を残せなかったが、この度、土質改良プラント運営事業者が「元請け登録」できるようになり、1 プラントを 1 現場として扱えるようになった。これにより、土質改良プラントに所属する職員を自社で技能者登録・能力評価することができる。

本講習会では、事業者および技能者の登録方法、現場(プラント)の登録、就業履歴の登録等についてオンラインで解説された。

なお、本講習会には、CCUS を運営する(一財)建設業振興基金にもご参加いただき、JSARA 会員向けの資料も作成いただいた。当日の配布資料は、以下の会員専用ページにアップされているので、講習会に参加されなかった会員もこれを参照し、積極的に CCUS を活用いただきたい。

会員専用ページ：<https://jasra.or.jp/member-login/>



(株)サンエコセンター 代表取締役
小重 忠司 氏

お知らせ

【1】 行事予定

- ・ 11 月 15・16 日(土・日)：第 2 回「登録土質改良基幹技能者」講習／会場：損保会館(東京都千代田区) ※申込受付は終了しました。

【2】 10 月 31 日現在の会員数

- ・ 正会員 69 社 賛助会員 35 社 特別会員 2 社 合計 106 社

【3】 投稿記事の募集

- ・ 「JASRA ニュース」では、会員の皆様からの投稿記事を募集しています。ご希望の方は、下記事務局までお問合せください。

事務局

一般社団法人 全国建設発生土リサイクル協会

〒101-0023 東京都千代田区神田松永町 22

電話：03-3526-2129 FAX：03-3526-2139

E-mail：jimukyoku@jasra.or.jp URL：<https://jasra.or.jp/>

———— JASRA ニュース VOL. 16 令和 7 年 10 月 31 日発行 ————